

荒川区区政改革懇談会 中間報告会 グループ発表

グループ発表（茜）

【茜グループ・新井敏夫氏】

茜グループの新井と申します。結婚式のスピーチと同じで、一番というのはなかなか緊張します。お手元の資料に書いてあるように、私ども茜グループは、都内で子育てをしていた、あるいは現在、子育て中の者が中心のグループです。主に、グループの構成を申しますと、お母様方が多いが、私は会合の時間の都合の関係で、黒一点、掃き溜めのなかの鶴ではなく、鶴の中の掃き溜めのようになっていますが、男性は私一人です。私たちのグループの構成メンバーの特色が、話題は子どもや学校教育の問題を中心に、それらに多くの時間を使ってきた経緯があります。今回の発表ではそれらをかいつまんで説明します。

まず、1ページ目ですが、これは私どものグループの現在の荒川区に対する現状認識をまとめているものです。子育て、教育、コミュニティ、まちづくり、福祉・環境、その他という形で分けておりますが、現状認識としては、他グループの方々とはほぼ似たようなところがあるかと思えます。話し合いの中では、当初は環境問題でありますとか、教育問題でありますとか、個別に縦割りの話し合いをしてきましたが、どうしても、私を含めて構成メンバーの関心が高い、子どもの問題の話題に頼り切っているかなということで、話しの切り口として、世代ごとに順序良く、輪切りにして考えていくという提案をしました。



資料の2ページご覧ください。荒川区で生まれて、荒川区で育っていき、荒川区でずっと暮らしていくため、だいたいの世代ごとに、荒川区で一生過ごしていくにはどういう区であつたら良いのか、世代ごとに順序よく、考えていくことにしました。そこでは若い世代、生まれてまもなくの子ども世代から中学生、高校生世代中心の話し合いが主にされていまして、グループの構成からなかなか共栄されていない部分が多く、我々の想像力が足りないというか、知恵が足りないような話が多いかと思えます。そこで特に今日は、下二つの世代中心に述べさせていただきます。

ページ3目、一番最初の世代、「子どもを育てやすいまち」、ということで、これは大人からみた表現ですが、私たちの話し合いの意識としては、子どもが健やかに育っていけるまちという、子ども主体とした話し合いをしました。本日出かける際に、広島府の残酷な事件のニュースを聞きましたが、子どもたちが健やかに、伸びやかに、そして安全に育っていくまちを、まず作っていききたい。そういうまちでなければ、全国的な課題である少子化対策とかにもならないし、こんなところでは子どもを育てられな

いぞというまちであつたらいけないと思うので、まず子どもが育ちやすい、暮らしやすいというまちを考えていきたいなということで、話し合いを進めてきました。

また、その中では幼稚園と保育園の問題なども話にあがりました。幼稚園、保育園の一元化は、昭和 30 年代くらいからずっとテーマとして上がっているが、未だに実現しない。他区では、いろいろな工夫をしながら、幼保の一元化を訴えたり、取り入れたり、もう既に始まっているところもあるということで、荒川区でも、是非そんなスタイルがとれればいいなと考えております。他には、小さな子どもがいるという段階では、父子家庭について、母子家庭には概ね手厚い保護がいろいろあるが、父子家庭に対する保護は、なかなか父子家庭に対しては保護は足りないのではないかと、等といったことも話しにのぼりました。

次に学校教育を受ける世代のところへいきます。学校教育は、というと、特に話題としてでてくるのは公立学校の力が低下しているのではないかとということです。特に中学校以上に関して、一都三県ですと、中学生、小学生、中でも荒川区はデータとして他区と比べると、外部へ出てってしまう小学生が多い。それはやはり公立中学校のほうに魅力がないのか、あるいは交通のアクセスが良いことから、いろいろな中学校があるということで、本来行きやすい学校に通っているのか、いろいろな原因があるかと思えます。子どもたちというのは、やはり、私たちの未来を担う、私たちの貴重な財産です。将来の荒川区を担っていく、支えていくためにも、子どもたちが、もう一度荒川に戻ってきてくれるように、公立学校に、もう一度、力を取り戻したい。そのような認識で話し合いをしました。例えば、品川区ですと、既に区立の小中の一貫で、4年、3年、2年という形を牽いて、実践的なスタイルでやっている。荒川区も、公立の、特に中学校の力を取り戻せるように、そのようなスタイルをなんとか取り入れたい。そのために、小学校では、英語を学力特区として始めておりますけど、この荒川区の有名な開成学園を荒川区内に持ち、区の横を見れば東京大学があり、言ってみれば日本でも有数な文教地区でもあるにかかわらず、東京 23 区の中学生の学力試験だと、残念なことに、ほぼ 20 何位かになるらしいですね。英語の学力特区ということではなく、逆に学力が非常に高い、文教的に非常に高い特区を逆に目指してしまって、昨今ではゆとり教育なんていう話しが持ち上がっていますが、それはちょっとまずいのではないかとということで、文部省の方では、あわてて訂正している状況ですが、逆に荒川区では突出して学力が高い子どもたちをどんどん育てていけるような学校があればいいのではないかとというような話を今、進めているところです。細かなアイデアについては後日資料を提出できる機会があると思えます。

今日の一番最初の発表ということでこんなところで終わらせていただきます。

グループ発表（真紅）

【真紅グループ・杉本洋平氏の発表】

こんにちは。荒川区在住の大学院生で、杉本洋平と申します。早速、真紅グループの中間発表をさせていただきます。

まずは、私どもの資料の表紙をご覧くださいと思います。私ども真紅グループは20～50代までの勤め人を中心にしたグループでありまして、主に勤労者として、あるいは生活者として、これからの区の望ましい姿について話し合っています。また、その実現に向けて、その方向性について、議論を重ねているところであります。

では、早速、1ページをご覧くださいと思います。私どものグループと致しましては、主に、5つの分野から議論しております。そして主に、「住んでみたいまち」、「行ってみたいまち」、そして、「居住者のお互いの顔が見えるまち」ということをコンセプトに議論をしてみました。「住んでみたいまち」と致しましては、主に都市基盤、あるいは居住環境といった、主にハードの側面を議論しております。「行ってみたいまち」といたしましては、「再開発」、「観光」、「荒川区のアイデンティティ」、「都市ブランド」といった観点から議論しております。また、「コミュニティが活性化している」、「顔が見えるまち」と致しましては、主に、近年では荒川区での居住者のお互い近隣の人達がなかなか交流の機会が無いということから、コミュニティの復活ということを、主に議論をしているところでございます。

続きまして、荒川区の現状について、話を進めてまいりたいと思います。2ページをご覧ください。私たちが議論したテーマとして、再開発、観光開発等のテーマがございしますが、まず再開発、観光開発にあたって、荒川区の良い点、悪い点はどこなのかという点について議論をしました。良い面と致しましては、荒川区が小説の舞台になったり、下町文化を持っている、国際性が豊かである、あるいは、日暮里のファッションストリート等、多様な文化資源に恵まれているということがいえるのではないかと思います。その一方で、何か荒川区



としての具体的な特徴が掴みにくい、あるいは、荒川区に対する社会的認知度が低いのではないかと。よって、今後再開発を進めるにあたって、これからの荒川区に向けて、知名度を上げていくようなPRということが必要ではないか。特に再開発を契機として、荒川区に来てくれているお客様に対しても、魅力あるまちづくりということが必要ではないかということも議論しました。

その上で立地のポテンシャルという点について、議論を進めてまいりました。隣の2ページの右側の欄に、荒川区の立地のポテンシャルという点について考えてみますと、JRや東京メトロなど、いくつかの路線が通っておりまして、交通の便は大変に恵まれているということが言えるのではないかと。また、心理的にも、都心に大変近いということで、その立地を是非とも生かすべきであろうということが、私どもの目標として、掲げているところでございます。

続きまして、都市基盤・ハードについて話したいと思いますが、3ページの左側をご覧ください。主に、都市基盤という面で、荒川区を考えてみますと、最近ではアクロシティ等の大規模開発

が進んでおりまして、町並みが大変きれいになっているということがいえると思います。また、西日暮里の駅前におきましても、放置自転車の数が減っていったり、荒川区の整備環境も段々良くなってきています。その一方で、住宅密集地域も、まだ依然として多く、火災等が発生した場合において、避難、あるいは安全の確保の面で不安があるのだろうという事ができます。また、景観にしても、なかなか開発地と既存地区の調和がとれていないといったことが出てきますし、自転車のマナーという点ではまだまだ改善の余地があるだろうということが依然課題としてあがっております。

続きまして、安全・安心という点について、テーマに移りたいと思います。荒川区の安心や安全といった点では、シルバー人材の方々や、小学校の子どもたちの安全な登校に気を配ってくださるというような現状認識がなされています。最近では、不安が、子どもたちの登校や学校生活に不安を感じさせるような事件が多い中で、そういったことは重要ではないかと考えます。その一方で、木造の住宅地域では、主に、防災に対する意識が高いのだけれども、再開発地域では、なかなか地域のコミュニティが無いこともありまして、防災への関心がなかなか浸透していないという現状もあります。また先程、都市基盤のところでも申しましたが、自転車の駐輪スペースが少ないこともありまして、外に自転車の駐輪が多くあって、消防車が入れない等の、今後そういった側面の改善も必要であろうということがいえると思います。

次に福祉や介護について、話を進めてまいりたいと思います。4ページをご覧いただければと思います。荒川区の福祉や介護という側面については、特に高齢化が23区の中で3番目に高いということが挙げられます。また独居老人の比率もかなり増えていることで区民の立場から、お互いの助け合いという観点に立ってコミュニケーションをとっていくことも、今後必要ではないかとのことが議論になっているところでございます。それに関連して、コミュニティ、区民参加のところについて、話していきたいと思いますが、荒川区のコミュニティという点について考えていきますと、なかなか地域コミュニティに対する若い人達の関心が少ない、でありますとか、あるいは隣の居住者がわからない、あるいはお付き合いがない等の問題もございまして、なかなかコミュニティというものが育ちにくい、あるいは発展していないといった事が言えるのだろうと思います。これは、その一端として、都市計画の負の側面として、新興住宅を受け入れる反面、町会を新たに結成する等の取り組みがなかなか進んでいないという状況もありまして、今後、地域コミュニティの大きなテーマではあるのではないかと考えております。そのためにもコミュニティの情報をなるべく区民同士が提供し、共有ができる枠組みや取り組みというものが必要であるのではないかと考えております。

続きまして、5ページに行きたいと思います。5ページではこれからの方向性について、若干申し上げたいと思います。現状認識を踏まえて、私たちとしては、5つの方向性から基本的な考えということでまとめております。まずは「行ってみたいと思ふまち」にするためにして、どのようにしていくか。荒川区の売りとなるインパクトの高いマンションや雑居ビル等で特徴をつくっていく。他には荒川区ファッションストリートづくり等が面白いのではないかと。また、観光資源といたしましては、都心に近い大規模なベッタウンを生かして、従来の町、イメージを残しつつも、大規模な開発周辺のメリハリのとれたまちづくりが必要なのではないかと。それと同時に、自転車の空間、自転車の置き場、自転車ゾーン稼働、教育等の取り組みも今後必要なのではないかということ、このごろ模索しているところございます。

また、災害に強いまち、安全なまちということについて、話したいと思います。6ページをご覧ください

い。災害に強いまち、安全なまちといたしましては、まだ議論の最中でございますが、災害に強いまちづくりというのは近年多くの自治体でも課題になっているところでございます。特に都市環境の改善、ハードの面においては、災害時に対して互いに地域住民が助け合えるような体系等をいろいろ行い、多方面の取り組みとすることを合わせて進めていく必要があると思います。同時に、近年犯罪の増加あるいは凶悪化に伴いまして、犯罪がない、安全な町の実現に向けて、区民や学校あるいは行政等が連携して地域区民の取り組みを運営していくことが必要なのではないかと考えているところでございます。最後に地域住民の互いのコミュニケーションと申しますか、地域コミュニティの回復に向けて、「共存、ノーマライゼーションの高いまち、」というのを考えております。特に障害者はもちろん高齢者の方も増加するというので、なんとか地域が暮らしやすいような地域社会、つまり、誰もが生き活きと暮らせるような地域社会づくりというのを考えております。

また最後になりますが、7ページをご覧ください。荒川区の将来、コミュニティの活性化を目指していくにあたって、私たちとしては、お互いの顔が見え、地域の課題の解決に向けて、相互が助け合えるような地域社会の実現に向けて、町会活動、ボランティア活動、次の世代間交流等、いろいろなコミュニティを形成するのが必要であると考えております。特に近年は荒川区の高層マンションが増加しているところでございまして、新しい住宅に住んでいる住民をどのように巻き込んでいくかということも今後荒川区の将来像を描くにあたって、非常に重要なファクターになるのではないかと考えております。

以上、まとまりのない発表になってしまいましたが、ご清聴いただきまして、ありがとうございました。

グループ発表（瑠璃）

【瑠璃グループ島田氏、文村氏】

皆さん、こんにちは。ただいまご紹介いただきました、瑠璃グループの島田、文村でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

最初に、資料の1ページ目をご覧くださいませ。先程来、他のグループの方がおっしゃっていたような区の現状に関して、お互いいろいろ話し合いました。こういったところでは、だいたい似たような問題点を感じているということがございました。その内容を、どのような形で表し、どのような形で発展していったらいいか、中間ではございますが、イメージを作って、それに肉をつけていったらどうかとの話になりましたので、次に2ページ目をご覧くださいませ。ま



ずは、荒川の良さ、特色といったものを考えた上で、出てきたキーワードは、「イキ」ということで考えてまいりました。「イキ」といいますと近隣の浅草とか、そういったところの方が専売特許ではないかという話が、グループの中で出ました。しかし、「イキ」というのは、どういうことであるかといえますと、2ページ目の右側の上の方を見ていただければわかると思いますが、「イキ」過ぎると気障(キザ)になりまして、無くなると野暮(ヤボ)になります。地味だけれども、気持ちや身なりがさっぱりして、垢抜けして、色気がある、人情の表裏に通じる、頼まれたら嫌と言えない、こういったことが、荒川区民の気質ではないかと思えます。また、こういったことが伸ばせれば、荒川区も成長するのではないかとこのことで、「イキ」という言葉を使って、いろいろと考えてまいりました。左側の「いき！イキ！荒川プロジェクト！」という形で考えてまいりました。この絵のように、非常にうまく考えていただきました。「こっそり皆に教えよう。地味だけどイキなところ(荒川区PR戦略)」。荒川区の「イキ」なところといいますが、奥ゆかしいところだと思いますが、あまりアピールが上手ではないということが、一つ挙げられると思います。この部分を少し意見的に盛り込んでいこうじゃないかという話をしました。他に、頼まれたら嫌と言えない、「イキ」なところということもあります。最近ですね、そういった「イキ」であるということが、恥ずかしいとかで、うまく発揮できてないのが、現状であるという風に考えております。イキな心復活作戦というのは、地域のコミュニケーションといったところにも通じてくると思います。実は、大変いい図を作っていたのですが、左側に「イキな荒川区」と書いてありますが、右側に、「本当は行きたい荒川区」という同じような絵が入ることになっていました。コンピュータの打ち合わせをしている時は非常にうまくできた絵だったんですが、いざプリントアウトしたら、どういうわけか無くなってしまいました。やはり、こういったところからも、一つ一つの人情、コンピュータだけでは管理できない、そういったことに、重きをおいていけたらなと思っております。「イキ」ということを核にいろいろ構想を練っていかうとしているのが、瑠璃グループでございます。(1)

3P目の資料をご覧くださいませ。「イキ！な荒川区、イキたい！荒川区」の粹という言葉をあえてカタカナにしたことについて、粹について、ここに色々書いてございます。生きるの「生」、憩いの「憩」、粹の「粹」、活力の「活」、行き来の「行」、こういったことに引っ掛けて、荒川区の発展を考えていけた

らなということで、話し合いをしました。これらを核に、実際どういうところでやっていくかという具体的な案をひとつ、同じグループの文村さんに、これに肉付けをしていただきまして、大変いい構想が出来ましたので、これについて、文村さんから発表してもらいます。

引き続きまして、本当にいろいろ瑠璃グループの発表について、本当に頭のところから、荒川区をどうしようかと色々考えて、本当に駄洒落とか言い合いながら、どうした言葉尻が合うかなとか、皆にわかりやすいメッセージができるか等、結構荒川区でも色々ありますので、そのようなのを色々考えまして、「イキ」というのは、色々大切な気質というか、そういうグループの共通意見でして、「イキ」での荒川区なりに、ということがあるのではないかなということがあります。それでもこれは抽象論なので、もうちょっと具体的な例で立ち上げようというメンバーが瑠璃組には多いというのがあります。その中で、本当に真剣に議論したんですけれども、区民から見てもおしゃれだとか、荒川区に住んで誇りがもてるとか、そういったことが荒川区であるし、区外からみても、魅力的で行ってみたい、あそこに住んでみたい、働きたいなっていうキーワードはどういう風にしたらいいのかと考えて、キーワード探しをしてまして、荒川の良き資源が結構あるのではないかな。それは、見えているものと、今、拾わなければ廃れてしまう資源になるのではないかな。そういうものをまとめると、一つ、学びというキーワードで生かした方がよいのではないかなという意見がありました。私のような外からの力でも、皆さんが集まってくる要素だと思うのです。何を学ぶということは、基本的にここに紹介しておりまして、「イキ」を生かして、ちょっと苦しいところもありますが、いろいろなキーワードがありまして、生活、福祉、環境があります。これを一つまとめると、荒川区は、近隣や東京都と比べると、どういう特色かということ、住み心地の良い「東京の田舎」ということになると思います。これに関してはいろいろ異論があると思いますが、今、田舎というのは見直されており、しかも住み心地が良いというのなら良いのではないかなということですね。最終的に議論の中では、下町文化等も出まして、荒川区って結構いろんな所に面白いものがあるから、まち全体で発掘してみてもどうか。他には唯一、特権的と言いますが、日暮里周辺のイメージですと、美容学校とかいろいろありますが、それらを増やしていったらどうかといったことも出ました。また、最近いろいろな特区がありますけど、ファッションアパレル特区のような形で、東京のなかで際立つ存在になるようになれば良いのではないかな。あと、忘れていけないのは、ものづくりです。荒川区には重商工があり、いろいろな方たちが集まっているので、ちょっと刺激的な「町工場からアトリエ」という形になれば、若い人からも手が届くし、地元の人でもやってみようかなということを考えたい。あと、歴史は、川越のような街道沿いのまちづくりです。なにも荒川区だけにとらわれなくてもいいじゃないですか。日暮里だってそうです。区が中心となって、行政の垣根を越え、学べるという状況。

具体的な構想は、次のページ、写真入りのものです。これをひとつひとつ説明していくと時間がなくなってしまうのですが、全体に共通している事柄もあります。あらかわ遊園があるので、あらかわ遊園で下町グルメを融合したり、東京たてもの園みたいなものを、こっちに持ってきて、その建物で商売したっていいじゃないですか。全然関係ない、明治とかからの現代のものの流れからメルヘン等のイベントを催してみたり、台東区では浅草サンバカーニバルとかありますし、そういうものを、ひとつ、つなげたら、面白いのではないかな。あと、ものづくりの方で、荒川区にものづくり大学を作ったら、職人さんの方は喜ぶし、マイスターの方たちを教壇に立たせ、若い人達と一緒にものづくりをして、その中で生み出したプロダクトで商売にして、お金にして、外部の人を招聘したりしたら、面白いのではないかな。アパレル特区の日暮里の方のイメージづくりでも、今のままでなく、若い人達の企業家を集めて、

ニューヨークの SOHO のようなものもいいのではないか。そして最終的にはミラノみたいに重商工が一体となるように。あと、江戸とかあまりこだわらずに、昭和のレトロなまち等は流行っているので、取り入れてみてもいいのではないか。そういう風な具体的なもので考えてみました。それらを、今の荒川区、将来の荒川区をうまくPRしようと考えました。次のページなのですが、荒川ウォーカーとか東京ウォーカーのようなものなんですけど、そういったものをうまく利用したり、別に区でやらなくても、民間でやればいいのですが、荒川ポータルサイトのようなものを作ったり、区報のメルマガ化等することで、ビジネスのチャンスも広がるし、区民も買い物や計画等の情報を得られる形のアピールもいいのではないかと話をしております。

具体的過ぎたところもあるかと思いますが、以上をこのグループのまとめとさせていただきます。

(1)ホームページに掲載してある資料は修正後のものです。

グループ発表（紫苑）

【紫苑グループ、桜井善忠氏】

私どもの中間発表の資料をご覧いただきたいと思います。最初の表紙の所に、紫苑グループということで、ただいま、粋な瑠璃グループが30～40代の自営業者とのことでしたが、私どもはその次の世代で50～60代の経営者・自営者を中心としたグループです。豊富な経験をもとに、荒川区の現状・問題点から、具体的な課題までを積極的に議論をしまいいりました。さらに、荒川区の産業の活性化や教育について、特に議論を重ねているところでございます。これからも話し合いは続くところでございます。



グループのメンバーが、様々な職種の人々、様々な人生経験をお持ちの方、地元に着した生活をしている方、区外を相手に仕事をいる方、いろいろな方がいらっしゃるの、受け取り方、考え方の違いが当然あるわけです。総論になりますと、ほとんど賛成ですが、各論といいますか、具体論になりますと、持論を展開されて、なかなかまとめるにできなかったということもございませう。でも、年のせいと申しますか、年なりに頭が柔らかくて、大変友好的な雰囲気でありました。メンバー一人一人、大変尊敬できる、すばらしい人達と出会うことができたと思っております。ただ、発表の中で、それぞれのグループの皆様のご意見・提言を、そのまま出しているところもございませうので、確認がとれていない部分もあることをお汲み取りつつ聞いていただきたいと思っております。更に、5回も議論を重ねていますので、10数時間、20時間近くのを、10分間の説明にするのは、大変難しいことなので、先程、もう少し勘弁してくれないかと聞いたら、15分までなら勘弁するとのことでした。そんなことで、一瀉千里で早口になることもあるかと思っておりますが、お許しいただきたいと思っております。

それでは、表紙をめくっていただいて、1ページ目から説明していきたいと思っております。他のグループと同じように、1～3回までは、フリートキングで、いわゆる荒川区のイメージや良いところ、悪いところ、課題の抽出とか解決リスト等について、出しました。4回目は産業活性化、5回目は教育・高齢者等につきまして、課題解決を話し合い、後ろの3つぐらいにまとめてあります。このグループは概して、年齢が高いほうなので、10年先や100年先の遠大な夢、将来像というよりも、どちらかという、3～5年の直近の話ということで大勢を占めておりましたので、そんなところもお考えいただきたい。これは見やすい図になっておりますけど、荒川区の事態環境の変化と今後の動向、荒川区を取り巻く環境の変化、荒川区の現状認識というところは、全体として荒川区のイメージは、そう悪くないまちなんだと、プラス志向で受け止めて、積極的に対案を立てていくべきではないかとの意見が出ておりました。多少マイナスイメージのものとしては、区民がやや消極的な面が見られるので、意識の高揚が必要なのではないか、区等がいろいろなことをやっても、なかなか関心を持ってくれないというような悩みもあるようです。だから、それぞれのイベント等で炊きつけていったらどうだろうかとか、町会組織の活用化をもっと考えていったらどうかということもございました。真中の黄色い所では、今後は財政がますます厳しくなっていく、そして、少子高齢化がさらに進んでいくということから、3つの課題といいますか、柱を立てました。あまり、予算を使わずに、解決できる課題から取り組んでいくべきだろうと

ということ。それから、もうひとつ、区独自で伸していく考えだけでなく、区長さんの幅広い政治力等も大いに期待していかないと、決められない部分があるというような話しも出ております。ABCという3つの柱にしまして、2~3ページ目にあります。本当は模造紙で大きくしてやらないとわかりにくいのですが、2ページと3ページは隣り合っているものなんです。先程、区長さんのご挨拶にもありましたように、上のところが区の目指すところということで、「区政は区民を幸せにするシステム」であるということもおっしゃってましたし、「区は一企業である」というようなこともおっしゃられたかと思います。シャッフルということで、それに対して、ABCを分けまして、まずAが、産業・まちの活性化ということで、横に「交通の体系化に観光政策と荒川ブランドをリンクさせる。それが、新しい企業の創造と商店街の活性化につながるのではないか。」ということ提言させています。その中に3つに分けて、A-1、A-2、A-3という風に分けました。まずA-1が「観光の振興と回遊できるまちをめざす」ということで、先程来、「台東区では、谷中-根津-千駄木というには回遊ルートがあり、大変上手いPRもしてるので、観光がうまくいっているようだ。環境的には、荒川もそう変わらないはずだから、大いに習って、うまくできないものか」ということで、例えば、「幹線道路に接する商店街にコスモスを植えるなどのイベントを行い、それを区外に発信する。そこで人を呼び込んだときに回遊できる道があるか」ことを示しています。左側の方に「人の流れをいかにつくるか、回遊させるかということが、観光化につながる」、「外との回遊の方策を考える」ということで、ひとつ具体的な例を、皆が出し合っておりますので、やはり地域特性を生かすということが振興には大事なんだということで、隅田川についても、「遊覧船のコースを浅草までではなく、荒川遊園くらいまで延ばすなど」、また、「荒川遊園の波止場は活用されていないので、再検討の余地あり、川の活用は広域行政なので、将来的にステップを踏んで進めていく。都に入ってもらい、沿岸の区と連携することになる」「隅田川の護岸の整備を今、しているわけですが、まだ3割くらいしか完成していないので、三ノ輪までつなげれば、桜観光としても、いい散歩道になり、三ノ輪橋商店街とともによい観光資源になるのではないか」、それからA-2の右側の方で「船の便を、足としてではなく、観光資源として使ってみたらどうか」という案が出ておりました。それから、もうひとつ、A-4というのが、矢印が複雑なので見にくいかと思いますが、交通体系を整備ということでは、A-4に書いてあるかと思いますが、「交通の体系化や基盤整備には、関連する政策がたくさんでくるので、効果が高い。強化するべき。」というので、PRの点では、「どこで何に乗ると、どこへいけるという情報提供ができると効果的である」と、「交通資源を上手にシステム化し、いかに体系化し、人の流れを作っていくかということが重要なのだ」と荒川区は大変都心にも近いし、交通の便もいいし、数もかなりあるじゃないかというような、また、A-2の「ブランド力をつける」でも他のグループでも指摘されておりましたが、「日暮里あたりでも繊維の「ニボカジ」と言われて、人が集まっている、これをもっと活かす。荒川区のブランドを創り、育てる、ブランドを区外へもっと売り込む」というようなことで、「ブランドを売るのに、イベントを打ち上げたらいいだろう、浅草のサンバカーニバルは当初は不評だったが、今ではすっかり定着している。荒川も今年から「荒川よさこい」を行う。こういうイベントやブランドをもっと活発に行い、区外に発信し、総合的に売っていく。」というような、それからA-3の「住工混在、住宅政策、人口増加策」というようなことでは、これにつきましても、「都心に近いので、大変職住近接のメリットがある」、だから、「住工混在を逆に資源として、活用できる余地があるのではないか」というようなことで、それから、住宅政策の方では、「活力あるサラリーマンに住んでもらう」、人口増加策については、「どのくらいの人口が荒川区には適しているのか、その辺のスタンスも知っておく必要」がある、も

うひとつは、荒川区の区報に出ておりましたけど、12月2日から第26回あらかわの伝統技術展職人の祭典が開かれるようですが、それに呼応するような形で、各分野に呼びかけて、イベントを荒川区で開催するのも、大いにPRになるのではないかと思います。

それから、3ページ目に移ります。これは、本来2ページ目を横に並べた形になります。Bの教育の質の向上、Cの高齢化への対応ということで、ちょっと早くに端折りますが、教育の質の向上では、「区内の児童が伸び伸びと育ち、適切な教育を受けられる環境を実現する必要がある」と「荒川区の小学校の学力が低下しつつあるのではないか。区外に通学する生徒が増加しているのではないか」、ただ、小学校ではベスト10で、中学校だと20位くらいようです。そのような事に関しては教育の質の向上のところで、2つB-1とB-2でだしてあります。B-1の家庭教育等についてということで、「学校教育も大事だが、子どもの性格や家庭教育も大いに影響する。家庭教育の重要性等、早急に手を打つべきである」、そして、「地域で教育に取り組んでいくべきである」。実は先日ムーブ町屋で、東京大学名誉教授の月尾嘉男先生のお話を聞く機会がありましたが、昭和30年代、40年代、高度成長期の時に、昔からの日本の良さが置き忘れられてしまった、機能的、合理的では生まれないものがあるのです。その失われたものは、日本人の生き様の良さだったのだということで、家族の団欒の場だとか、近所でのコミュニケーションの場だとか、こういうことは非常に大事だったということです。そして親子の環境のために、親が子どもを見るという基本をしっかりと教えるということも大事です。子どもたちが荒川で学んで、荒川に住み続けたいという思いのためには、やはり子どもたちの意見も聞く必要があるということも指摘しております。学力の向上ということですが、緊急の課題で、悠長に構えてられないので、今の若者にとらわれず、学力向上対策は、すぐにできることから始めればよい、その他の細かいことは、ご指摘があったとおりです。

次に、B-3教育制度の見直し、B-4教員の質向上がありますが、教育制度に関しましては、都の権限、校長、教頭の問題が色々でておりますので、区の権限があまりないのではないかと、区立で出来る部分が非常に少ない。ただ、そういうことに制約されないで、もっと伸び伸びできないか。その下、右側、B-5学校選択制について出ておりますけれども、「区外の生徒が通いたくなるような特徴を、荒川区の学校に持たせたらいいと思う」といった意見もありました。先程来、すごい進学校を養成したらどうかというご意見もありましたけど、更に進めて、学校選択制にして、生きがいを教える学校とか、日本語を教える学校とか、とにかく義務教育に力を入れたり、生きがいを教える学校、進学を考える学校等、また、土曜日の活用も考えられるのではとのご指摘もありました。いっぱい並べてありますけど、とにかく、人間的な部分、社会人としてのバランス感覚、そういったものを、きちっと持った先生が大事になってきます。過日、テレビかなどで杉並区で教師塾なんてものがあり、一応、先生になる前の先生の資格を持った人を選考して、1年間、杉並区で研修させて、その結果を見て、教員として採用するというのを、2、3日前にテレビでやっていましたが、そういったことも考えられるのではないかと、いった意見がありました。

最後のCの高齢化への対応ということで、「高齢者が生き生きとできるまちをめざす必要がある」というのがありました。安心安全なまちづくりということで、元気な高齢者に向けてというのは、定年後の20年も人生もあれば、余命とは言えず、第二の人生ではないか、ということで、荒川区の条例に記載してある老年の年齢を65歳からとでているようですが、75歳はちょっとオーバーかもしれませんが、せめて70歳からに直してみたらどうでしょうか。区長の方でも生涯健康都市部の宣言というのをされ

ているわけですが、ご指摘の皆様方がご存知かわからないですけど、高齢化が進んでいるので、高齢者の病気予防に力を入れて、元気な高齢者、これが基本ではないか。そのためには、健康に係る業種の人を登録して、盛り上げていけば、必ず成果が現れるということだと思います。それから高齢者の就労、高齢者の社会活動、生涯学習については、ここに書いてある通りですけど、荒川では、116の町会組織があるので、それを上手に活用すればいいのではないかと。そして、活動をする高齢者に報酬を払うということを、必ず考えないと続かないのではないかと思います。

時間がオーバーしているようなので、終わらせていただきます。ありがとうございました。

グループ発表（萌黄）

【萌黄グループ 牛丸さん】

皆さん、こんにちは。萌黄グループの牛丸と申します。萌黄グループは、既にと言うか、とっくに子育てを終えた女性だけのグループでございます。今日、発表すると申しまして、女性しかおりませんので、どういう訳か、私ということになりました。私は荒川に生まれ、荒川で育ちですので、頼まれれば嫌といえない、先程出ました、「イキ」のいい女でございまして、発表することになりました。

普段は、ここに書いてあります通り、他のグループは年齢が書いてありますが、私達のグループのところには年齢が書いてありません。そのようなグループですので、常に井戸端会議の状態の会議でございました。そんなところ、このような資料をまとめてくださった中村さんが、本当に大変だったと思うのです。私が見ても、こんな様に話してたかな、と思うように本当に、よくまとまっております。見ていただきますと、本当によくわかりやすく、まとまっております。先程来より、発表がございましたように、年齢が変わっても、根本的には考えることが一緒なのかなと感じました。荒川区のイメージに致しましても、先程おっしゃったように、都心のいい地区にある、交通の便がいいとか、色々な面で、皆さんと同じような考えを持っているというようなことを感じました。



また、1ページに書いてあります近所づきあいですが、これは、私達、超ベテランです。長年主婦をやっていますので、近所でお付き合いをするのはとても上手です。下町らしいお付き合いを、私達はしておりますが、荒川区とはいい所がたくさん残っているまちだと思います。近所づきあいを深めて、色々なことを助け合っていけるまちではないかなあ、と感じております。近所づきあいに関しましては、とても長い時間を費やして、話した部門でございます。災害対策、次の災害ですが、これも、とても取り組み時間が長かった議題でございます。最近、日本国内ではもちろんのこと、世界各国でもいろんな災害が起きております。身近な問題でありますので、一番長い時間を費やしたと思います。ここに書いてあります通りに、町会毎に防災訓練等しておりますけど、実際、どんな風に避難したらいいのだろうかとか、心配ごとが沢山ありまして、これからも、まだまだ、この事に関しては、話し合っていかなければ、と思っている大きな問題点です。荒川区は特に裏に入りますと、狭い路地が沢山あります。そのような場所はどのように避難したらいいのか。高齢者の方が、一人でお住まいのお家も沢山ございます。そういう場合は、町会ごとに助け合うのかしら、それとも隣の人が助け合うのかしらと、一番心配な問題になった事柄でございます。こうれからも、区は勿論、警察、消防、医師、いろいろな方たちと取り組んでいかなければならない、大きな問題だと思っておりますので、この中間発表の後も、この問題を特に話し合っていきたいと考えております。

次のページですが、放置自転車問題も、先程来から出ております。皆様のモラルとか色々問題点が多いと思いますので、これも今後の課題にしていきたいと思っております。教育関係とか産業に関しては、私達の年齢的にあまり活発な意見が出ませんでしたので、子育ても済んでおりますので、なかなか

教育に関しては大きな話題が出ませんでした。産業の発展等に関しても、井戸端会議ではちょっと難しいかなという感じで、通り過ぎてしまいました。いろいろな話しの中で夕方、いつも防災スピーカーから流れてくる「あらかわそして未来へ」のメロディーがとてもいいわね、という話が出まして、そのマイクなんですけど、もうちょっといいものがないかな、日頃、よくどこで事件がありましたとかスピーカーが流れているんですけど、窓を開けて、一生懸命、耳を凝らしているんですけど、聞いているうちに反対の方に行ってしまったたり、もうちょっといいスピーカーがいいものがないか。また、その防災スピーカーを使って、荒川区の PR をしたり、こういうのがありますよ、とかいう宣伝などに使えないのかしら、というような話しがとても多く出ました。あのスピーカーの利用方法も考えていただけたらなということもお願い致したいところでございます。私達のとんでもない井戸端会議はまだまだ続くと思いますので、中間発表はこのあたりにして、あとは資料を見て、考えていただきたいと思います。

中間発表はとりあえず、ここまでとさせていただきます。ありがとうございました。

【山吹グループ 市川政夫氏】

山吹の市川でございます。どうぞよろしくお願
いいたします。私どものグループは、座席表を
見ていただければ、わかると思いますが、例外
かもしれませんが、このグループの中で一番年
寄りグループでございます。俗に、昔は年寄り
は色々尊敬されたんですが、最近はなかな
かうまくいかないようで、何とかここで奮起して、
いい案を出そうと頑張りました。一枚開けていた
だと、全体の山吹グループ中間発表骨子とい
うのがございます。これを中心に、話をしてい
きたいと思っておりますので、よろしくお願
いいたします。



私ども、ここにありますように、一番左側、「産業・経済」から始まりまして、「基本構想実現のために」という6つの項目について、主に話しを進めてまいりました。一番目の「産業・経済」につきましては、今までのグループで、ほとんどの方が発表の中に含まれておりますので、簡単に説明したいと思っておりますが、私どもはその中で、特に、伝統工芸と観光について話し合いを深めてまいりました。問題点としましては、伝統工芸の場合には、ほとんどが零細企業あるいは家内工業なので、後継者の育成が非常にできにくい、そういうネックがあるので、その辺を、これから考えていかなければ、伝統工芸が消えてしまうだろうと、そういうような話が出ました。観光につきましては、全国的に宣伝するような大きな目玉はないと思っておりますが、今まで出てきた隅田川、あるいは、その他、色々、ある程度のもものが荒川区にもあると思っておりますので、それをいかにうまく利用して、いかに PR していくか、それが大切な問題になるだろうということで、これも具体的な事につきましては、まだまだ考えていかなければならないだろうと、そういう風に思っております。次のまちづくりについてですが、これも皆さんの発表の中にほとんど入っていたので、簡単に触れますと、やはり、ひとつは荒川区の一番良いところと思われる下町風情、これが最近、マンション等の新しい住民が非常に増えてきた、いろいろ聞いてみますと、ここでのコミュニケーションがうまくいってない。その辺のところを、これからどうやっていくか、町会を利用するとか、いろいろな方法があるとは思いますが、行政の方に出させていただいて、我々に指導していただいて、同じ荒川区民ですから、それが一体になる状態になるように頑張らなければいけないのではないか、という風に思っております。次に教育の問題ですが、これにつきましては、私どものグループではかなり時間を割いて、討論いたしました。皆さんもご存知のように、最近の青少年犯罪の増加、そして低年齢化、1～2週間前でしょうか、校内暴力が中学校から小学校に増えてきた。しかも小学校で教員に対する暴力が増えている。ちょっと、我々大人が考えられないような現象がどんどん起こっている。テレビマスコミでは、まだ十代の若い子が大人も考えられないような犯罪を犯してます。凶悪な犯罪を犯すのは、青少年の一部でしょうが、これは荒川区の商店をやってらっしゃる方が、痛切に感じていると思っておりますが、万引きなんか日常茶飯事なんですね。それでも、やはり窃盗という犯罪ですが、それがどんどん起きている。そういうような青少年の低年齢化と凶悪化につ

いて、それを、なんとかいい方にもっていくためにはどうすればいいか。それを考えると、やはり何かを治療するには、応急手当と根本的な治療が必要である。応急手当の方は、今、皆さん考えている。応急手当だけでは本当の健全育成ができない。根本的な治療をするには、やはり教育でなければならない。教育が本腰を入れて、そのことに取り組んで、しっかりやれば、これは、何年やるかわかりません。けども、いずれは、立派な区民に育てあげられることができる。これは、私もそのご恩に関係した以上、自信を持っていえます。教育というと、学校教育、家庭教育と言われますが、教育というのは、学校がするものではありません。家庭がするものではありません。皆でします。学校も勿論やります。家庭もやります。地域もやります。お役所もやっていただきければ、そういう荒川区民全員が丸となって、健全育成をしよう。そういう意識を作って、実行に移す。それができれば、教育の効果は絶大なものがある。その辺のところを、是非、基本構想に、文言は私はわかりませんが、入れていただいて。区民 19 万全員が自分の区の子供を自分たちで健全にしていこう。そういう気持ちを起こさせる力が必要。その辺はこれからまだ検討していかなければいけないと思っております。その次はコミュニティの問題ですが、新しい住民の方と古い住民の方との意識の格差。これをどのように埋めていくか。また、それをどういう風に、これから発展させていくか。これが非常に問題になるのではないかと思っております。それと、もうひとつ、荒川区で忘れていけないのは、荒川区に住んでいらっしゃる外国人の方。外国人の方と我々住民とが、もっともっと密接に、都民税を取ってですね、荒川区民の生きる力、やっていかなければ、お前たちは関係ないよとか俺たちだけだよという気持ちを絶対持っていないといけない。荒川区に住んでいるものは、皆荒川区民、そして、皆でいい荒川区にしていこう、そういうような気持ちを育てていかなければいけない。そういう風に思っております。次に区政でございますが、私、時々ですが、区に行きまして、区の変貌と言いますが、変化にびっくりしております。昔は、いわゆるお役所、小さくなってすいません、これお願いしますというような状態で、おどおど区役所に行ったもんですが、最近区の方が非常に区民に対して親切にしています。私はそう感じてますが、意外に思いますが、今でもそれを感じていない人もいます。その辺のところはどう違うのか、考えてたんですが、一つは、そういう言葉があるかわかりませんが、行政感覚、行政に携わる人の感覚、それから、庶民感覚、ごくごく一般庶民の感覚、それがお互いに理解しあえてないのではないかと。だから、一般の人からは、荒川区の方等の努力が上滑りのように見えたりになったり、実感できなかつたり。そういうことがあるので、私は決して努力していないと思いません。努力してると思いますが、だけど、これが伝わってない。これからはこれをどう解決していくか。これを、是非、簡単に入れていただきたい。最後に、私も、実は時間がなくなってしまうと、残念ですが、この基本構想を考えた時に、何が一番大切か、これだけで、ものすごい時間がかかりました。それは、立てた基本構想がどう実現にいたるか、基本構想いくら立てても、実現しなければならぬならない。実現させるまでにはどうしたらよいか。それは、おそらく、お役所の方でも、充分、それを具体化する方策を練っているとか、それが、区民に伝わってない。本当に区民が理解していない。それと同時に、さっき言ったような、行政感覚、庶民感覚のずれが、その辺のところ、どっちが良い、どっち悪いのではなく、感覚のずれをその辺のところ埋めていかなければだめだと、同時に、やはり、構想を立てて、計画を立てて、それを具体化して、実行して、その後の強化が弱い。はたして、この基本構想を実行して、どれだけの実績が上がったか。どこが悪かったか。どうすればもっと良くなるか。その評価が非常に薄いのではないかと。おそらく私の知らないところで行われているかもしれませんが、ただ、それ

が区民に伝わってこない。その辺のところを是非頑張ってください、基本構想を立てる。そして、実行しなければならない、そして効果が出なければならない。その辺を基にやっていただきたいと思っております。以上でございます。